

新規就農者に引き継がれ 伸びゆくぶどう産地の育成

岡山県 美作広域農業普及指導センター

活動対象

JA晴れの国岡山久米南ぶどう部会(農家数 40戸 栽培面積 29.1ha)

課題の背景と目標

背景

- 明治時代からぶどう栽培が行われている歴史のある産地
- 平成に入り、高齢化などにより部会員、栽培面積が減少
- 平成15年以降は販売金額も減少し、産地の衰退が危惧

目標

- 産地の再興と拡大を図り、次世代のぶどう産地へ
 - ① 新規就農者の確保による産地の若返り
 - ② 園地再生による産地規模の拡大
 - ③ 新規就農者の経営確立と大規模化
 - ④ 新技術導入による経営力の強化



活動内容

1 新規就農者の確保による産地の若返り

産地課題の共有

- アンケートによる現状把握と10年後の園地マップ作成
- 協議を重ね、産地課題を部会、関係機関で共有

新規就農者の受入体制の整備

- 就農オリエンテーションや就農相談会による就農支援
- 農業体験研修や農業実務研修による技術習得支援
- 就農希望者への就農計画の策定支援

青年農業者クラブの再結成と活動支援

- プロジェクト活動や新技術の実証、地域農業者との連携構築



就農オリエンテーション



将来を示した園地マップ

2 園地再生による産地規模の拡大

園地流動化とぶどう荒廃園やたばこ廃作地の再生

- 園地マップを活用した園地流動化
- 部会による荒廃園地等の再生

遊休水田等の有効活用によるぶどう団地の造成

- 地域内全農業者の営農意向調査と部会の運営方針確認
- 造成地の選定、産地ビジョンの策定を支援



ぶどう荒廃園の再生

3 新規就農者の経営確立と大規模化

経営確立支援

- 関係機関が一体となり、個々の営農計画に応じた経営・技術指導を実施

技術習得支援

- 新規造成園地の順調な成園化による収益確保を支援
- 新規就農者を対象とした講習会(初心者会)を開催



新規造成園地での土壌調査



初心者会

4 新技術導入による経営力の強化

シャインマスカットの出荷期間延長による労働分散と所得向上

- 樹上保持、冷蔵保存技術の実証
- 市場調査により、11月以降の出荷の経済性評価

スマート農業の推進による省力化

- ロボット草刈り機による除草作業の省力化
- 加温栽培ハウスへの環境制御システムの導入



冷蔵保存技術の実証調査

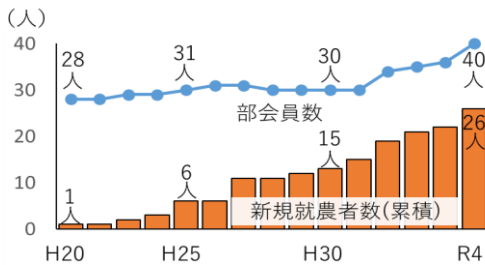


ロボット草刈り機

普及活動の成果

1 新規就農者の確保による産地の若返り

- 平成20年から令和4年までに26人が就農し、部会の平均年齢は53.2歳と10歳以上若返り
- 部会員数は、過去最多の40人に増加



2 園地再生による産地規模の拡大

- ぶどう荒廃園、たばこ廃作地は全て再生し、新たな園地として、遊休水田等をぶどう団地に造成



整備前・狭小水田 36 枚が連なる



整備後・6区画のぶどう園地

3 新規就農者の経営確立と大規模化

- すべての新規就農者が定着し、ほぼ計画通りに経営規模を拡大
- 就農後5年以上経過した新規就農者の平均栽培面積は、部会平均72.8aを上回る88.7aに拡大

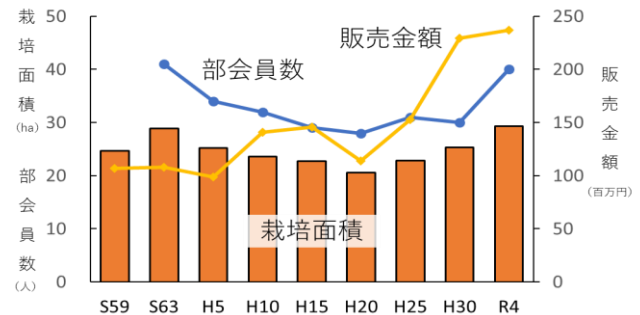
4 新技術導入による経営力の強化

- シャインマスカットの出荷期間延長により、労力分散と所得向上が実現
- スマート農業の推進による省力化
 - ・ロボット草刈り機による省力化を確認
 - 研修会で導入啓発し、9戸で22台を導入
 - ・加温ハウスへの環境制御システム導入により換気やかん水作業等を省力化



5 産地のV字回復

- 令和4年度には、部会員数、栽培面積(平成20年度比142%)とともに、最大であった昭和63年度と同程度まで回復し、今後も増加の見込
- 販売金額は2億3,714万円(平成20年度比208%)となり、大幅に上昇



今後に向けて

継続的な新規就農者の確保・育成

- 継続的な就農希望者と農地、住宅等の確保
- 短期間での部会員の入れ替わりと若返りに対応した次世代リーダーの育成

スマート農業による高品質・大規模化

- スマート農業技術のさらなる普及を図り、高品質・大規模化を推進